

異文化間能力を育むための翻訳活用法  
—初級・中級の日本語クラスでの実践—

ロンドン大学 SOAS 大学院生 行木 瑛子

言語教育では、長い間翻訳が活動の1つとして使用されてきた。ただ、言語教育における翻訳は、語彙や文法習得が中心で、文脈がないものが多いとの指摘もある(Cook, 2010)。翻訳研究で指摘されるように、翻訳は語彙や文法構造だけでなく、語用、機能、ディスコース、文化要因等が深く絡み合うものであり(e.g. Baker, 1992; Munday, 2001)、言語教育における翻訳活動も様々な角度からアプローチできるのではないかと思われる。本研究では、選択体系機能言語学(SFL)を用いて、翻訳を「活動領域(Field)(内容)の他、役割関係(Tenor)(書き手と読み手の社会的役割・関係)、伝達様式(Mode)(話し言葉／書き言葉の違い等)(Halliday & Matthiessen, 2004; Halliday, 1985)を考慮した1つの言語から別の言語への意味の移転、または意味のデザイン」と定義した上で、初級・中級の日本語学習者の異文化間能力の向上を主眼に置いた新たな翻訳活用法を探る。

本研究は、学習者の第一言語の役割に新たな光を当てながら、応用言語学と日本語教育学の分野に貢献しようとするものである。上記に述べたように言語教育の現場では翻訳が頻繁に使用されているが(Malmkjær, 1998)、応用言語学の議論上では必ずしもそうではなく、20世紀前半から目標言語だけを使用した環境が言語習得に最も有効という考えから(Cook, 2010:89)、言語教育(特に英語教育)において学習者の第一言語の使用があまり奨励されてこず(Cummins, 2007)、翻訳もあまり俎上にのせられなくなっていた。ただし、最近では、政治的(Phillipson, 1996)・教育的(Cook, 2010)理由から第一言語の役割が見直されるようになり、また、応用言語学の分野では社会的転回が起こり(Block, 2003)、学習者は目標言語のネイティブスピーカーになるために勉強するのではなく、文化間の「third place(第三の場所)」を探したり(Kramersch, 1993)、ヨーロッパ共通参照枠(CEFR)にもあるように social agent(社会的な存在)として言語・文化間の仲介者になること(Coste, Moore, & Zarate, 2009)が推奨されるようにもなった。この流れから、翻訳が第一言語の有効な活用法として再評価されるようになっている(Cook, 2010; Malmkjær, 1998)。本研究もこのまだ始まったばかりの流れに沿うものである。

また、グローバル化が進む昨今は、言語・文化間な仲介者・媒介者として学習者の異文化間能力をどう伸ばしていくのが盛んに議論されている(e.g. Byram, Nichols, & Stevens, 2001)。ヨーロッパ共通参照枠(CEFR)に大きな影響を与えた Byram (1997:49-54)は、異文化

間能力について「態度(Attitude)」、「知識(knowledge)」、「解釈と関連付けのスキル(skills of interpreting and relating)」、「発見とインターアクション(skills of discovery and interaction)」、「批判的文化アウェアネス(critical cultural awareness)」という5項目を挙げている。翻訳プロセスは、常に1つの文化から次の文化へと関連付けていく作業をしながら、起点言語でも目標言語でもない第3の場所を探す活動であって、言語間だけでなく文化間のエキスパートも育成する場も提供できるとも言われていることから(Schulte, 1988)、翻訳活動を通してどのようにこの現在の社会で必要とされる異文化間能力を向上させることができるのかを探りたい。さらに、初級・中級で「考えさせるタスク」が欠如していること(Kern, 2002)ことから、対象は初級・中級学習者とした。

本研究にはロンドン大学 SOAS で日本語を学習する1年生11名(初級)、2年生11名(中級)が参加した。活動領域(Field)以外にも、役割関係(Tenor)、伝達様式(Mode) (Halliday & Matthiessen, 2004; Halliday, 1985)にも注目させた翻訳クラスを各レベル週1回90分、4回ずつ行った上で、彼らの翻訳プロセスの変化をクラス前後のインタビュー、think-aloud protocol という手法を使った短い文章の翻訳を通して分析した。また、クラス内のディスカッションや学生日記、翻訳の宿題・翻訳自己分析シートも考察した。

今回は、このうちの有名人のブログを通して、書き手によるスタイルの違いや「ですます体」「である体」とそのシフトに注目した中級の第1回目の授業のみを紹介する。クラス内でのディスカッションや宿題、学習日記の分析を通して、多くの学習者が日本語の多様なスタイルに気付き、以前は気にしなかった書き手の意図やスタイル、読み手にも注目して翻訳するようになっていたことが分かり、翻訳を通して中級学習者に対しても、上記のByram(1997)の異文化間能力のうち、特に「解釈と関連付けの技術」に関連する、考えさせるタスクを提示できるのではないかという示唆が得られた。

## 参考文献

- Baker, M. (1992). *In Other Words: A Coursebook on Translation*. London; NY: Routledge.
- Block, D. (2003). *The Social Turn in Second Language Acquisition*. Washington, DC: Georgetown University Press.
- Byram, M. (1997). *Teaching and Assessing Intercultural Communicative Competence*. Clevedon, UK: Multilingual Matters Ltd.
- Byram, M., Nichols, A., & Stevens, D. (2001). *Developing Intercultural Competence in Practice*. London; NY: Multilingual Matters Ltd.
- Cook, G. (2010). *Translation in Language Teaching: An Argument for Reassessment*. Oxford: Oxford University Press.
- Coste, D., Moore, D., & Zarate, G. (2009). Plurilingual and pluricultural competence. Council of Europe. Retrieved from 21 January 2012 from

[http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/Source/SourcePublications/CompetencePlurilingue09web\\_en.pdf](http://www.coe.int/t/dg4/linguistic/Source/SourcePublications/CompetencePlurilingue09web_en.pdf)

- Cummins, J. (2007). Rethinking Monolingual Instructional Strategies in Multilingual Classrooms. *Canadian Journal of Applied Linguistics / Revue canadienne de linguistique appliquée*, 10(2), 221–240.
- Halliday, M. A. K. (1985). *An Introduction to Functional Grammar*. London: Arnold.
- Halliday, M. A. K., & Matthiessen, C. (2004). *An Introduction to Functional Grammar* (3rd ed.). London: Arnold.
- Kern, R. (2002). Reconciling the Language-Literature Split Through Literacy. *ADFL Bulletin*, 33(3), 20–24.
- Kramsch, C. J. (1993). *Context and Culture in Language Teaching*. Oxford: Oxford University Press.
- Malmkjær, K. (1998). *Translation & Language Teaching: Language Teaching & Translation*. Manchester: St. Jerome Publishing.
- Munday, J. (2001). *Introducing Translation Studies: Theories and Applications*. London: Routledge.
- Phillipson, R. (1996). Linguistic Imperialism: African Perspectives. *ELT Journal*, 50(2), 160–167.
- Schulte, R. (1988). The Art and Craft of Translation: Re-creative Dynamics in Cross-cultural Communication. In B. Lothar & D. Haack (Eds.), *Perceptions and Misperceptions: the United States and Germany: Studies in Intercultural Understanding* (Tübingen., pp. 169–176). G. Narr.